

第4回市民懇話会 の振り返り

議題 1

目次

- 1 全体スケジュールと今回の議題 2
- 2 第4回市民懇話会の議題・テーマ
と主なご意見 3

1 全体スケジュールと今回の議題

【各回のテーマ】

令和6年
12月20日

第1回

- ①緑の基本計画と富士市の現状を知る
- ②緑に期待する役割を考える

令和7年
2月5日

第2回

富士市の緑の将来像を考える

6月6日
(金)

第3回

将来像を実現するための取組を考える
(その1)

7月18日
(金)

第4回

将来像を実現するための取組を考える
(その2)

8月29日
(金)

第5回

次期計画の素案について

パブリックコメント

令和8年
1月頃

第6回

パブリックコメントの結果報告と
計画案について

2 第4回市民懇話会の議題・テーマ と主なご意見

議題1 第3回市民懇話会の振り返り

議題2 第三次富士市緑の基本計画のアウトライン (案)

議題3 将来像を実現するための取組を考える(2)

テーマ1

緑をまもりつなぐ担い手づくり

テーマ2

公園でしてみたいこと

議題 2 第三次富士市緑の基本計画のアウトライン (案)

将来像及び目標（修正案）について

意見要旨	対応
目標 2 の「市民が主体となって」という表現は、将来像に掲げる「みんな」という表現と矛盾している印象を受ける。	ご指摘を踏まえ、目標 2 を「みんなでまちの魅力を高める緑をはぐくむ」とし、説明文の冒頭を「多様な担い手による（以下略）」に修正しました。
将来像で富士山を取り上げているにも関わらず、施策における富士山への言及が少ないのではないかと。	ご指摘を踏まえ、施策 3 の説明、施策 8 のタイトル及び説明に富士山が含まれるよう見直しました。

議題3 将来像を実現するための取組を考える（2）

テーマ1 緑をまもりつなぐ担い手づくり

若い人、元気な高齢者の参加を促進する

「いただきのはじまり」のように
若い人の意見を聞く場をつくる

元気なお年寄りの協力・活躍

現状ある組織、人材の支援と、
新しい担い手の育成・若い人の巻き込み

農政、観光振興と連携する

観光資源である茶畑に関わる活動をしている
方々も、緑に関わる担い手に加える

森林環境譲与税を利用した、公園を管理・
活用する担い手づくり

体験の機会をつくる

家庭菜園・土いじりの体験づくり

野菜作りから営利活動をイメージできる体験

社会教育事業に、剪定講習などを導入

木こり体験に参加した普通科の高校生が、農林大学校
（現・農林環境専門職大学）に進学した例がある

ボランティアの有償化、収入になる活動化

有償ボランティアの募集
活動に必要な機器購入支援・共同利用

【現状】

- ・林業、任意団体 町内会、愛護会が植栽管理（ヘッジトリマー、草刈り機での作業）
- ・年2～3回取り組んでくれる、やや若い層が参加しやすい環境づくりが必要
- ・夏の草刈りは重荷
- ・作業に必要な機器を個人が揃えるコストも負担

収入になる活動化

【参考例】まちづくりセンター（松野地区）

- ・宝くじ助成金で機器を購入
- ・機器の使い方講習を実施し担い手を育成
- ↓
- ・協議会が指定管理者となり、緑の管理で収入を得る（法人化によりビジネスとして管理）

情報発信

企業SNS、地元インフルエンサーとの連携

テーマ1 緑をまもりつなぐ担い手づくり

関心のある人を増やす・花や緑にふれる機会、公園に行く機会をつくる

- ①関心がない人は情報にアクセスしない → 関心のある人を増やす
- ②関心がある人の障壁を取り除く工夫をする

まちづくり協議会で地区の公園を考える

地区で公園のことを考える機会がないと、担い手は出てこない

【現状】まちづくり協議会で公園の利用は話題に上らない
子どもが公園に行かない
公園への愛着が乏しい

- ・地区の公園を再認識する機会をつくる
- ・子どもが遊べる場とする

公園に行く「用」をつくる

公園に関心がない人を引き出すインセンティブを生み出す

【例】YouTubeばかり見ている大学生に、どうやって公園に来てもらう機会をつくるか？
→ポケモンGoのような位置情報ゲームとコラボ

花に関心につなげる

花がきれいなまちづくりセンター（駅南、伝法等）は人目をひく

関心がない人に印象付ける活動
管理されない花壇の改善

市民の需要を満たす公園をつくる

夏は暑すぎて公園に行く気にならない
行くのは水遊びができる市外の公園

気軽に水、水辺に親しめる公園をつくる

議題3 将来像を実現するための取組を考える（2）

テーマ2 公園でしてみたいこと

樹木の管理をイベント・体験につなげる

大木がたくさんある公園、木が大きくなりすぎて困っている公園で、木を切ることをイベントにする

- ・ロープを使って職人が木を切る高度な技)を「見せる」
- ・キッチンカーなどによる集客
- ・キャンプ、木工体験をあわせて開催

伐採する木を「活かす」イベント

伐採した丸太を使ったベンチ、遊びの場
キャンプ・アウトドアができる公園

そのほかイベントに関すること

中央公園ですでにやっていることを市民に知らせる

公園のイベント収益を公園の整備・維持に還元させる仕組みをつくる

公園を防災活動に活用する

防災キャンプ

富士市でも実施し、公園が有効利用され、大切な場所と認識されれば、活動・担い手づくりにつながっていくのではないかな。

防災公園で、防災体験イベント開催

【実施例】

- ・ 防災訓練の一環で、マンホールトイレを利用（田子の浦方面）
- ・ 学校行事で防災キャンプ実施（丸火自然公園）

- ・ 吉原地区 防災キャンプ（11月開催）
参加すると資格を獲得できる

同時に、3月の桜まつりに向けたチューリップ
植栽、グラウンドゴルフ体験を開催



他分野の取組に緑の要素を加えることで、
関心がない人にもアプローチできるのでは？

テーマ2 公園でしてみたいこと

公園でできることを発信する

（現状）仕掛けをもったストーリーがない

- ・若者が公園に何を期待しているか？
- ・軽自動車のCMのピクニックは若者の関心を引くが、公園でやっていいのかわからないのではないか？



公園でやってもいいこと・できることの
イメージを共有、発信

子どもの利用を促進する

子どもが公園を利用しない理由

- ・公園を利用する子どもの声、ボール遊びへのクレーム
- ・高齢者のゲートボール利用



当事者の間に立って調整する仲介者の存在
が重要

市民参加を進める

市民参加のワークショップをもっと実施

インクルーシブな公園をつくる

障害の有無、性別、年齢に関係なく遊べる
公園「インクルーシブ」な公園づくり

名所をつくる

ほかの地域の人にも訪れてみたいと思ってくれる
四季折々の名所をつくる

- サクラ、ヒマワリ、コスモス、バラ
- △秋の紅葉が少ない

サクラ

市内20数か所の名所のうち公園は4か所
→サクラを植えて、**お花見に若者を集めることで活性化**につなげる

ソメイヨシノの寿命問題への対応

→オオシマザクラ、河津桜 の活用